授業科目名	発達障害教育指導法（Ｉ）	単位数	2
担当教員名	古川　潔	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	中学生フリースクール･通信制高校で教諭として勤務経験のある教員が、通常学級に在籍する発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の指導・支援について解説する。		

「学位授与の方針」との関係

本科目はインクルーシブ教育システムを具現化するために、多様で柔軟な学びの場について幅広く理解し、子ども一人ひとりの自立と社会参加を見据えた、その時点での教育的ニーズに的確に応える指導を提供できるよう、発達障害のある児童生徒への理解と支援の方法を身につけるための科目である。

授業の到達目標及びテーマ

（Ｉ）発達障害及びその周辺域にある児童生徒の個人差を部分的に見るのではなく、認知的個性として包括的に理解し、現場での活用の方法を理解する。

（２）才能教育、個性化教育、特別支援教育も含めた広い視野から、多様なリソースを活用して指導していく方法を理解する。

（３）自立への長期的な見通しと対応、短期的な問題解決の考え方と方法について理解する。

授業の概要

本講座では発達障害の状態にある児童生徒だけでなく、環境要因によっては発達障害となるリスクを持った児童生徒も視野に入れた教育指導法について学修する。認知的個性は児童生徒一人ひとり異なるものであることから、幅広く理解・教育支援・評価についての知見を持ち、あわせて集団における関係者間の相互関係についても現場で活用できることを目的として学修する。さまざまな場所、立場、動機で参加している他の受講生との対話を通じて学びを深められるよう、アクティブラーニングの手法も用いて実施する。

授業計画

第Ｉ回：発達障害の理解：発達障害の支援と認知的個性（Ｉ）発達障害の理解
第２回：発達障害の理解：発達障害の支援と認知的個性（２）発達心理検査の活用
第３回：発達障害の理解：認知発達を活かす認知的個性（Ｉ）知能と才能
第４回：発達障害の理解：認知発達を活かす認知的個性（２）チェックリスト の活用
第５回：教育支援システム：通常学級における発達障害の子どもへの支援体制
第６回：教育支援システム：学習活動の個性化への取り組み（Ｉ）カリキュラム・時間割
第７回：教育支援システム：学習活動の個性化への取り組み（２）評価
第８回：教育支援システム：学習活動の個性化への取り組み（３）集団編成と相互作用
第９回：教育支援システム：学習活動の個性化への取り組み（４）学習環境づくり
第Ｉ０回：支援の実際：共感的理解とコミュニケーション
第Ｉ１回：支援の実際：長期的視野の理解
第Ｉ２回：支援の実際：短期的視野における対応の考え方と支援方法　解決志向アプローチ
第Ｉ３回：支援の実際：ソーシャルスキルトレーニング
第Ｉ４回：支援の実際：保護者と教師・学校との関係調整
第Ｉ５回：支援の実際：保護者との面接及び家族内の関係調整
定期試験

スクーリングでの学修内容

１　児童生徒を取り巻く環境と発達障害の関連性についての理解

２　児童期から青年期にかけての実践について学び、システム思考「氷山モデル」の「水面下」を考えるワーク（三森）

２　事例を通じた発達障害及びその周辺領域の実践的理解

３　教育指導をプランニングする際の長期的視点と短期的視点の理解と具体的対応

（主に、第１回、第１０回～第１５回の内容を含む。）

※２日間のスクーリングの中で、適宜グループやペアでの意見交換・発表を行います。さまざまな場所、立場、動機で参加している他の受講生との対話から学びを深めることを目的としています。（ＺＯＯＭのブレイクアウトセッション機能を使用）

※スクーリングの中で、自己紹介を行う場面がある可能性があります。その場合、内容は「氏名」「本講座を受講した理由や目的」の２点とします。

教科書

松村暢隆・石川裕之・佐野亮子・小倉正義 編著（２０１０）『認知的個性　違いが活き　る学びと支援』新曜社

参考文献

（１）野添絹子（２０１３）『子どもの才能チェックＢＯＯＫ』小学館

（２）すぎむらなおみ、しーとん（２０１０）『発達障害チェックシートできました＿がっこうのまいにちをゆらす・ずらす・つくる』生活書院

学生に対する評価

スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。